

## NEWS RELEASE

2015年9月16日

### 4K 外科手術用内視鏡システムの開発について

ソニー株式会社(社長 兼 CEO 平井一夫、以下ソニー)、オリンパス株式会社(社長 笹 宏行、以下オリンパス)、ソニーとオリンパスの医療事業合弁会社であるソニー・オリンパスメディカルソリューションズ株式会社(社長 勝本 徹、以下ソニー・オリンパスメディカルソリューションズ)の3社は、2013年より連携して4K 外科手術用内視鏡システムの開発を推進し、この度、製品化に至りました。新製品は、光源部分、内視鏡からモニターまで、最先端の4K技術と各種ノウハウが組み込まれた、これまでにない外科手術用内視鏡システムです。

この新製品は、オリンパスの外科手術用内視鏡システムとして『VISERA 4K UHD』のブランド名で、2015年10月上旬からオリンパスが日本とヨーロッパで順次発売を開始いたします。

ソニー・オリンパスメディカルソリューションズとソニー、オリンパスは、次世代の外科手術用内視鏡分野において、今後も各社の有する技術やノウハウを融合し、シナジー効果を最大限に発揮させることで、世界の医療の発展に貢献してまいります。

なお、ソニー・オリンパスメディカルソリューションズという枠組みを含め、ソニーとオリンパスが協力した証として、「Innovation by Sony & Olympus」のロゴを製品に表示します。

Innovation by  
Sony & Olympus

#### 新製品開発における3社の役割

ソニー・オリンパスメディカルソリューションズは、ソニーとオリンパスが有するコア技術やノウハウ(ソニー:イメージセンサー、画像・信号処理技術、光伝送技術、4K映像の各種ノウハウ等。オリンパス:医療機器開発のノウハウや医療現場からの要望等)を融合し、医療機器用途に各要素技術および映像処理全体の最適化を行いました。特に、内視鏡システムの目に相当する4Kカメラヘッドや、撮影した映像を制御する4Kカメラコントロールユニット等、本システムの主幹となる製品の基礎的な技術開発を担当しています。

ソニーは、最先端のデジタルイメージング技術および4K映像関連の各種技術・ノウハウなどの提供に加え、医療用4Kモニターおよび4Kレコーダー<sup>※1</sup>の製品開発を担当しました。4Kカメラヘッドにはソニー製4KのExmor R<sup>®</sup> CMOSイメージセンサーや画像・信号処理技術、小型化技術などが組み込まれ、高精細な映像と高い機能性を実現しています。さらに、ソニーの4K映像伝送技術は、内視鏡とモニター間でほぼ遅延のない4K映像伝送を実現することにも寄与しています。

オリンパスは、内視鏡のトータルカンパニーとして、外科手術に対応した各種内視鏡製品を開発し、提供しています。新製品では、オリンパスの有する高度な光学技術が、主に高解像硬性腹腔・胸腔鏡や4K高輝度光源装置に活かされています。そして、これまで培ってきた医療機器製造や開発技術のノウハウを活かし、オリンパスメディカルシステムズ株式会社が、新製品の設計と製造をトータルで担当し、製品化<sup>※2</sup>しました。なお、新製品は、オリンパスの外科手術用内視鏡システムのラインアップとして、オリンパスの販売網で発売します。

※:4K 外科手術用内視鏡システムの製品発表文はこちらをご覧ください。

URL: <http://www.olympus.co.jp/jp/news/2015b/nr1509164klaunchj.jsp>

※1:医療用 4K レコーダーは 2016 年年初の発売に向けて、現在開発中です。(2015 年 9 月時点)

※2:製造販売元:オリンパスメディカルシステムズ株式会社。オリンパスは、戦略的事業拡大に向けグループの再編を行い、2015 年 4 月 1 日より、オリンパスメディカルシステムズ株式会社の機能は会社分割により一部を除いてオリンパスに承継されました。